



# 第30回 抗議デモ・学習会

## 5月9日(土)

- 抗議デモ 午後1:30集合 1:50出発 烏山区民センター前広場
- 学習会 午後2:30開会 烏山区民センターホール

### 講演 「高橋克也の裁判とオウム真理教」

今年3月地下鉄サリン事件から20年が経ちました。4月にはオウム真理教事件裁判も高橋克也の公判ですべて終結の予定です。死刑囚の信者など、多くの証人が出廷する異例の裁判でしたが、その中で見た事件の内容、裁判の経緯と共に、オウム真理教の過去と現在について中村裕二氏に講演していただきます。

講師：弁護士、地下鉄サリン事件被害対策弁護団 事務局長 **中村裕二氏**

烏山地域  
オウム真理教対策  
住民協議会



#### 中村裕二氏の略歴

昭和31年5月27日 東京生まれ  
 昭和54年3月 中央大学法学部法律学科卒業  
 昭和62年4月 東京弁護士会に弁護士登録  
 平成元年～同2年 英国ロンドンへ留学  
 平成2年4月から現在まで東京都町田市にて「未来市民法律事務所」を設立してパートナー弁護士

平成4年4月から同12年3月まで  
 中央大学法学部法律学科講師  
 平成9年4月から同10年3月まで  
 東京弁護士会人権擁護委員会副委員長  
 平成12年4月から同21年3月まで  
 東京弁護士会業務妨害対策特別委員会副委員長  
 平成21年4月から現在まで  
 東京弁護士会弁護士業務妨害対策特別委員会委員長

**自己紹介** オウムによって殺害された坂本堤弁護士と私とは、同期の司法修習生として、2年間同じ釜の飯を食べた仲。平成元年11月、英国留学中にロンドンの日本大使館で坂本事件の報道に接する。平成2年2月帰国後に、「坂本堤弁護士と家族を救う全国弁護士の会」(影山秀人事務局長)に参加する。平成7年から、「地下鉄サリン事件被害対策弁護団」事務局長としてオウム真理教を相手方とする裁判を仲間の弁護士らと担当した。オウム事件に関して、村上春樹氏の著作「アンダーグラウンド」(1997年3月20日講談社刊)の219頁以下、小林よしのり氏の著作「ゴーマニズム宣言 第7巻・同8巻」(1997年7月双葉社刊)の特別対談コーナーに登場など。

主催：烏山地域オウム真理教対策住民協議会 後援：世田谷区

### 連載 オウム真理教と闘い続ける⑬ 元烏山総合支所副支所長 齋藤洋子さんより

平成7年3月20日。職場での昼食時、TVニュースで地下鉄サリン事件の映像を目の当たりにした驚きを今でも忘れることができません。以前、都心の民間企業に勤務していた頃、地下鉄千代田線を利用していました。もし、勤務を継続していたならば、間違いなく、事件に遭遇していたでしょう。ショックで震えが止まらなかつたことを今でもハッキリ覚えています。その後、区の管理職となり、オウムが入居したマンションを区の職員が順番に監視することとなりました。現地に赴くと、敷地内にはコンテナが雑然と積み上げられ、要察そのものでした。

月日が経ち、烏山総合支所に着任した際、地元の方達と一緒に、住民協議会活動に従事しましたが、以前とは若干、状況も変わってきているように感じました。オウム問題に地域が丸となって取り組もうとする半面、町のイメージダウンに繋がりがねない懸念する向きもあり、地域の一体感を継続する難しさを感じた時期でもありました。その後、アレフ側が大挙して足立区に移転することになりましたが、その間も、インターネットを駆使したオウムへの若者の勧誘が続くなど、心配な状況は絶えません。

こうした中、14年以上もの長い間、住民協議会の方達が一致団結して運動を続けていることは真に賞賛に値し、頭が下がります。一刻も早くこうした事態が根本的に解決することを祈っております。

## 抗議デモ・学習会に おいでください

- オウム真理教(ひかりの輪)は、私たちが愛する街、烏山に住み続けています。オウム真理教に反対するみなさんのご参加をお待ちします。
- 若者や初めて参加する方大歓迎です。抗議デモのみの参加歓迎。

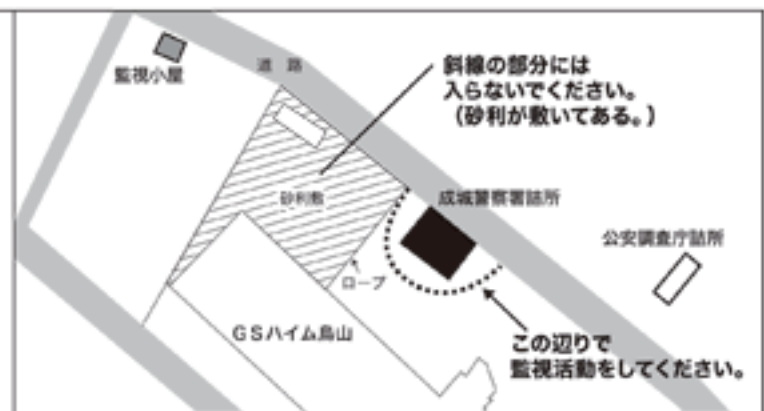


## 監視をする場所について

監視活動に参加している住民の皆さん、ご協力ありがとうございます。近頃ひかりの輪は、監視活動に対し精神的に苦痛を感じているようです。

さて、監視場所について改めて確認したいと思います。

ひかりの輪への監視活動は、砂利を敷いてある場所が私有地のため立入が出来ません。住民協議会では右図の場所で監視活動をお願いすることにいたしました。なお、監視は以前からご連絡してきた通り、その日の体調・気象状況なども考慮し、監視小屋で行うことも視野に入れてください。



## 滋賀県湖南市平松地区の活動 平松区環境整備オウム対策委員会委員長 山田了介 寄稿

オウム真理教は20年前(1995年)に地下鉄サリン事件等で30人の死者、6300人以上の負傷者を出す大罪を犯しました。その翌年(1996年頃)に10数名の出家信者が湖南市の平松施設に住みつき、その後に信者の一部が水口施設(甲賀市)に移りました。現在は二宮耕一以下女性信者を含み計4名が居住しています。二宮は地下鉄サリン事件当時神奈川県支部長(正悟師)でしたが、現在オウム真理教主流派アレフの最高幹部です。平松施設を拠点にして名古屋以西で修行や布教の指導を行ない、近年関西でも若者や母子の入信が増加しています。

平松施設には四方八方に十数台の監視カメラが取り付けられ、施設に近づく地域住人やオウム対策委員会の動きを監視記録して排除しようとしています。

また、オウム施設のすぐ隣には美松台住民全所帯の飲水である上水道施設があります。オウム信者は施設としての使用範囲を不法に広げ水道タンクに近づいており、地域住民は

不祥事が起こらないか日常的に不安を持ち続けています。

昨年、この平松施設で公安調査庁長官、弁護士、警察官など12名16枚の写真がナイフで串刺しにされた状態で、麻原彰晃の化身としているヒンドゥー神の祭壇の前に置かれているのが見つかりました。平松施設のオウム信者は現在も麻原死刑囚を崇拝し、殺人も厭わない教義も当時のままであることが分かっています。地域の住民は不安と恐怖を抱き続けており、オウム真理教に抗議し解体解散を要求する抗議集会を施設前の広場や近隣で、平成11年5月から32回実施しています。第33回目を平成27年5月に実施します。オウム事件を風化させないよう、近隣で抗議活動の写真展や署名活動を継続して行っています。オウム対策委員会は地域住民と共に粘り強く戦い続けていきますので何卒支援の程よろしくをお願いします。

## 「地下鉄サリン事件から20年の集い」に参加して 寄稿

3月14日「地下鉄サリン事件から20年の集い」が千代田区のプレスセンターホールで開催されました。

会場に入るとオウム真理教事件の動画が流されていましたが、当時を知らない若者に是非観てもらいたいと感じました。今年は事件から20年目という節目の年となり、多くの方が集まり、主催者より327名の参加者との報告がありました。

科学・救急医療・捜査・裁判・報道・地域住民関係の方々、当時を振り返り、悲惨な事件を再び繰り返させない、との決意と共に体験に基づく対策が報告されました。捜査・報道関係者から「サリン事件を知らない若者が多くなり、オウム真理教のそもそもから説明する必要がある」「サリン事件の話では化学兵器の怖さと同時に、後遺症を抱え苦しんでいる被害者の方々の現状に眼を向ける」ことの重要性の報告

がありました。事件の時、救急救命センターで、34人の診療を行った医師は「事件をきっかけに災害・テロ対策等に向けて、災害派遣医療チーム、東京DMAT・日本DMATが出来たこと、日本にも米国のFBIのような、組織の垣根を越えた機関の必要性」の訴えもありました。現在もオウム信者と面会を続ける元刑事は、事件は社会を写す鏡ではないかと前置きし「受刑者の多くが事件の背景には、社会の生きづらさ閉塞感があり、解決を宗教に求めた」との話が紹介されました。さらに「純粋と見えるものを簡単に信じるのではなく、様々な方向からみる必要性」が元裁判官から報告され、その言葉に強くうなずきました。話しを聞き事件を知らない若者が、オウム真理教の後継団体に引き付けられている現状に歯がゆさを感じると共に、住民協議会活動の一層のがんばりが必要と考えました。

## 住民協議会活動報告

3月14日(土)	「地下鉄サリン事件から20年の集い」参加	4月4日(土)	八幡山八栄会桜まつりで募金活動
3月19日(木)	実行委員会	4月6日(月)	協議会ニュース144号再校正
3月23日(月)	第9回リサイクルバザー物品受付	4月7日(火)	第9回リサイクルバザー物品受付
3月26日(木)	第9回リサイクルバザー物品受付	4月8日(水)	事務局会議
3月30日(月)	協議会ニュース144号初校正	4月10日(金)	第9回リサイクルバザー前日準備
4月2日(木)	第9回リサイクルバザー物品受付	4月11日(土)	第9回リサイクルバザー
4月4日(土)	上北沢桜まつりで募金活動	4月13日(月)	協議会ニュース144号発行

協議会ホームページアドレス <http://www.kyogikai.jp>

この協議会ニュースは、皆様の募金により発行されています。